

## 令和 6 年度農林水産業元気創造戦略推進会議（第 2 回）の概要

- 1 開催日時 令和 6 年 11 月 29 日（金） 13 時 30 分～15 時 45 分
- 2 開催場所 自治会館 401 会議室
- 3 参加機関・団体 農林水産業元気創造戦略推進会議委員 18 名 他
- 4 主な意見等

- ① 地域意見交換会の概要について

- ・質問・意見なし

- ② 次期農林水産業元気創造戦略骨子（案）について

【基本戦略 1】人口減少に対応した生産性の高い農業経営と持続可能な農村の形成

- ・新規就農者確保のため、トレーニングファームの開設や運営費用の支援、あるいは移住定住対策と連携した施策が必要。
- ・新規就農者のさらなる確保として、それぞれの地域で頑張っているリーダー農家があり、そうしたところへの親元就農支援も 1 つの視点。
- ・新規就農者に対する機械・器具の支援は、中古も対象とすることが望ましい。
- ・次世代のリーダーづくりも大事だが、同時に現役世代で今一生懸命農業経営を行っている方への支援も重要。
- ・経営継承や人材育成なども課題だが、まずは人手をどう確保するのが最大の課題。
- ・ある程度どのような経営体の育成に取り組むのか、あるいは対策が求められる課題は何なのか、力を入れていくプロジェクトを明確化するなどして、資源を集中していくことも必要。
- ・新規就農者は、自然災害や販路拡大の問題などで収入も不安定で、経営基盤強化という意味でも、農業保険の活用促進が必要。
- ・新技術については、スマートフォンの活用方法や新たな技術対策の指導も重要で、それに関わる人材の育成も必要。
- ・農村 RMO といった地域運営組織に、地域の商工業者などの若い力をどんどん取り込み、生産・流通・販売から地域活性化も含めて検討してはどうか。

### 【基本戦略2】気候変動に対応した環境と調和のとれた農業生産への転換

- ・温暖化対策は待ったなしの状態。積極的な取り組みをお願いしたい。
- ・温暖化対応は喫緊の課題。県の試験研究機関に期待している。
- ・温暖化に耐えられる品種や栽培技術の開発には、産学官の連携を一層強化し、総力を挙げて取り組んでほしい。
- ・環境に優しい農業は、販路拡大の観点からも、消費者も巻き込んだ形で進めていくことが必要。
- ・有機農業は大量生産が難しく、販路を探すこと自体が難しく、バランスを取った推進が必要。また、慣行栽培の否定には走らないようにすることも必要。
- ・国際水準GAPは、一農家が取り組むのはハードルが高く、あまり前のめりにならないようにしてほしい。

### 【基本戦略3】稼げる農業の実現に向けた戦略的な生産・流通・販売と産業連携

- ・5年水張り問題については、農地の問題と捉えて対応してほしい。
- ・合理的な価格形成については、合意を得るための努力が必要。そのためには各部署が情報のフィードバックを手伝うべき。
- ・新しいブランディングやマーケティングは、しっかりと腰を据えて取り組んでほしい。
- ・輸出促進の関係では、地域団体商標も活用し、食と関連付けた知的財産の活用積極的に取り組んではどうか。
- ・産学官連携で長期保存技術の研究開発を進め、国内はもとより国外にも輸出拡大を図れるように取り組んでほしい。
- ・輸出については、人手不足や人材不足の中にあっては、生産基盤の確立や人手不足の確保に重きを置くべき。
- ・物流の2024年問題もあり、今年4月からはトラック運転手等の時間外労働の上限時間が定められ、長距離輸送が難しくなる問題を踏まえたうえで、県産農産物の販売拡大の取組みを進めてほしい。
- ・食品産業と連携した県産農作物の付加価値向上について、マーケットインの視点を取り入れることが必要。
- ・6次産業化の施策に対しては、これまで推進してきた部分を踏まえながら、次の展開を考えていく必要があり、6次産業化の取組業者や関連する食品・流通関係者の意見や要望も踏まえ、どのような方向性にしていくのかを検討してほしい。
- ・6次産業化は、地域資源の有効利用や、土地、人も含め地域にもたらす影響が大きく、6次産業化の推進や支援事業は続けてほしい。
- ・山形県でも「6次産業化」という言葉はなくなるかもしれないが、現実に加工業を行っている方々をどうしていくかを考えることが必要。

#### 【基本戦略4】「やまがた森林ノミクス」の加速化

- ・木材生産量は伸びているものの、伸びが鈍化している。需要の大半は住宅分野だが、資材価格や人件費の上昇、安価な中古住宅のニーズの高まり、世帯数の減少等により、建築用材の需要が厳しくなることが懸念される。
- ・県産木材が適正価格で取引されるためには、安定的な需要が必要で、具体的な対策を考える際は考慮が必要。
- ・林業分野の人材確保のためには、労働環境の改善が急務。
- ・林野庁では、外国人を受け入れる特定技能制度に林業分野を追加したり、林業従事者の技能と地位向上を図るため、育林・素材生産作業の知識技能を評価する林業技能検定をスタートさせており、こうした動きも踏まえた人材確保・定着を進めることが必要。

#### 【基本戦略5】付加価値の高い持続可能な水産業の実現

- ・生産性向上や所得向上に資するスマート漁業の普及に関連して、相互通信の海難救助補助システムの普及も必要。
- ・洋上風力発電を契機にした漁業協調策・振興策の促進については、県では農林水産部以外も関係してくるので、関係部局が連携を密にして支援をお願いしたい。
- ・近年、漁獲量や魚価が不安定なこともあり、未利用魚の活用が必要。
- ・県漁協の信用事業や中古船の購入等に関して県の支援をお願いしたい。